

三島町（みしまちょう）

三島大社（三島市）は、東関紀行に「伊予国三島よりうつし奉る」といい、伊予国にては大山祇命を設くを以て、ここにも同神を設きたり」と大日本地名辞書に出ている。江戸時代では三島大社と呼ばれ、有名な神社であった。三島町の浜松神社は、この三島大社を奉請して創建された新宮で、はじめは三島大明神とよばれていたこともあった。三島町という町名の由来は、この三島大明神が鎮座しているところから来るという説が有名である。また、ここは昔、天竜川の川原であり三つに分けられていたところに、人家の集まりが形成されたので三島と呼ばれたともいい、さらには天竜川の中州で三つの小高い平地があり、ここにそれぞれの田畑と家が作られたので三島と呼ぶようになったという説もある。

寺脇町（てらわきちょう）

世にも不思議な伝染病がまん延して、非常に多くの死者を出した年があった。先祖を懇ろに祀らないための祟りではないかと里人は思い死者の霊を慰めるようにと、当時としては多すぎる寺院を建立したという。この町にある四つの寺院（曹洞宗の法寿院・般若寺・臨済宗の高福寺・宝円寺）を中心として町が区分されていることから「寺分け」と里人は呼んでいたが、いつの間にか訛って寺脇というようになったともいう。（廃寺が一寺あり昔は五か寺であった）天正二年（1574）紀州・熊野神社の別当職だった鈴木次郎左衛門が勧進に来て当地に居を構えた。天竜川の下流、アシの生い茂った荒地だったこの地を、次郎左衛門が開拓した。いまだに鈴木家を「しばきり」（開拓者の意味）と呼ぶ人もいる。法寿院の檀家には鈴木姓が多く、鈴木家の菩提寺である。高福寺の檀家には山内の姓が多い。遠州天方城主だった山内家は今川義元によって滅ぼされるが、その残党が安住の地をここに求めたという。外波山氏は宝円寺、足立氏は般若寺を菩提寺としている。

福塚町（ふくづかちょう）

ここでいう塚とは、やや高い砂地を表すようである。福を呼ぶ浜の土地のニュアンスがある。この土地は、奈良時代以前は怒とう渦巻く遠州灘の入り江であった。八世紀の終わりから九世紀の初めにかけて、浜が隆起して豊かな農地となったことから福塚と呼ばれたそうだ。他の白脇地区同様、かつて太藪栽培が盛んに行われた。その太藪田ではタニシがよく取れ、家の蛋白源となっていた。最近、太藪作りの衰退と農薬の影響ですっかり姿を消した。

中田島町（なかたじまちょう）

もともと中田島は、天竜川の運ぶ土砂やたい積物によって、その河口に形作られ孤立した島だったという。この島の中に田ができ稲作が行われていたので、人々は中田島と呼んだ。江戸時代から明治時代にかけて中田島沖は、カツオの宝庫だったという。また、入り江ではクロダイがよく釣れて太公望でにぎわいを見せたようだ。浜松市の特産の太藪は中田島をはじめ、白羽、福塚、寺脇など馬込川周辺で盛んに栽培されていた。

令和3年度 南区地域力向上事業 地域愛称マップ(白脇地区)

企画・発行 / 浜松市
(浜松市 南区役所 区民生活課 白脇協働センター)

引用 /
愛称標識ガイドマップ 白脇地区
わが町文化誌(しらわき 川と海に育まれて)

御協力 / 白脇地区自治会連合会
・瓜内町自治会
・白羽町自治会
・砂丘自治会
・寺脇町自治会
・中田島町自治会
・ビレッジハウス自治会
白脇地区社会福祉協議会

デザイン・印刷 /
株式会社クリエイティブプロジェクト・ズーム